

ペーパーファッション制作の展開
ファッションデザイン教育普及のための教材研究の課題
ー制作過程のプレゼンテーション のプロジェクト報告とワークショップ報告からー

Development of paper fashion production

Challenges for studying teaching materials for the spread of fashion design education

就実短期大学 生活実践科学科
九州大学 芸術工学府 デザインストラ
テジー専攻 後期課程
久保 美沙登
MISATO KUBO

要旨

1990年代から、ユニクロ、GU に代表されるようなファストファッションという、安価で手に入れられる衣服産業の形態が、ファッション産業の主流となっている。それに伴い、衣服のゴミ問題がニュースで取り上げられることが多い。世界のゴミの 14%は、繊維ゴミが占めているという。

しかしながら、衣服を着ることを突然やめるわけにもいかない。そこで特に若い世代に向けて、衣服やファッションとどう向き合っていくかが今後の環境問題とも関連しとても大切なところになってくる。ファッションデザインの可視的な部分だけではなく、ファッションデザインが衣食住一部であり、身近な存在であるからこそ、深く知っておくべき事が多い。

ファッションデザイン教育普及のためにペーパーファッションをファッション教材として取り入れ、その世代に合わせた実習や制作や振り返りのプレゼンテーション、ワークショップなどを試案し、一定の効果とともに課題を見出すことができた。

1. はじめに（研究の背景）

倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科において 2016-2018 年、倉敷市立短期大学服飾芸術学科で 2018 年（集中講義）、就実短期大学生生活実践科学科では 2019 年から 2022 年現在、ファッションデザイン実習ⅠまたはⅡの授業において、ペーパーファッションの制作を教育教材として取り入れている。

ペーパーファッションとは紙を素材としたドレスのことで、布で作成するドレスより材料費が安価で学生の費用負担も軽減でき、また加工が簡易にできる。また作り直しや試作がしやすく、ドレス自体の新しい造形を試みることができるメリットある。

ペーパーファッションを教材としてファッションデザイン教育に取り入れる意味は、近年、衣服のゴミ問題がニュースで取り上げられることが多い。世界のゴミの 14%は、繊維ゴミが占めているという。しかし、繊維ゴミを繊維に再生するリサイクル率は、なんとわずか 17.5%。この数字は、廃棄された繊維のほとんどがリサイクルできず、ゴミになっていることを示している。日本では年間約 28.5 億枚の洋服が作られ、その約半分以上は一度も着られることなく捨てられている（日本の国民の消費量は 13 億 730 万点 2019 年度調べ）。生産されている服の半分は、売れ残って廃棄されているという現状が続いているのである。

こういった問題がありながらも、私たちは長い文化・歴史の中で衣服を着ることをやめることはできない。それは、衣服を着るといことは社会とのつながりや経済、生活になくてはならない事だからだ。そこで衣服やファッションとどう向き合っていくかがとても大切なところになってくる。

ペーパーファッションは、環境資源の問題やコストの面において、このように教育用として適していると考えられる。

本研究では、このペーパーファッションに関する教材の導入の実践事例をもとに、新たなファッションデザイン教育の可能性や課題を整理する試みである。

2. ペーパーファッションの歴史（先行研究）

日本には「紙衣（かみこ）」、紙子とも書く、という古来の衣服があり、その歴史は平安時代にまでさかのぼります。かつて美濃や越前といった和紙の産地では、和紙を揉んで柔らかくして、反物のように張り合わせた紙布（しふ）から紙の衣服が作られていた。生漉きの腰の強い和紙を、糊で張り合わせ、着物仕立てにしたもの。糊は江戸時代にはワラビの根からとったものであり、現在はこんにゃく糊を使用する。軽くて、しかも保温性に富み、古代から僧衣として用いられ、その伝統を引いて今日も、奈良・東大寺の二月堂の修二会（しゅにえ）の際に着用されている。（注1）「紙衣（かみこ）」（紙子と表記されることもある。以下、本稿では紙衣と記す）紙は吸湿性が非常に高く、着心地も軽やかなため、高温多湿な日本の気候風土に適した衣服として、昔から武士や町人に親しまれていた。紙衣については、一般的な服飾史や日本史などではあまり紹介されていない衣服である。（1）

20 世紀には、大戦下のベルギーやフランスでは囚人用の衣類として使われていた。1960 年代ペーパータオルなどを製造する会社であるスコット・ペーパー・カンパニー（Scott Paper Company）社の宣伝広告用だったペーパードレス、当時は 1.5 ドルという安価で販売されていた。1960 年代アメリカ、紙で作った「ペーパードレス」が流行し、アンディ・ウォーホルを

始めとする多くのアーティストやデザイナーが多様なデザインのペーパードレスを発表し、人気となった。その後大流行したものの、紙という素材の脆さから発売からわずか2年ほどで市場から姿を消した。その歴史がとても短いからかペーパーファッションについては、一般的な服飾史などでは全く紹介されていない。(2)

21世紀、日本の人気ファッションブランド「イッセイミヤケ」。2013年春夏コレクションでは、宮城県の手すきの紙衣(かみこ)をヒントに和紙が原料の服「紙衣(かみこ)」を発表した。和紙にレーヨン張り合わせるなどして洗える「和紙ボンディング」(2枚の生地を接着剤で貼り付けた生地)、細く切った和紙をこよりにし、それを織り上げた「和紙キャンバス」、和紙とナイロンを組み合わせた「和紙ラッセル」などを使ったコートやジャケット、パンツなどを発表。どれも紙を使っているのに丈夫で立体的、そして軽やかなのが特徴である。(3)

アウトドアブランド・モンベルの「KAMICO(カミコ)」シリーズもその一つ。「蒸し暑い夏を乗り切るために、清涼感のある服を」という想いから作られた紙の服は、シャツやデニム、靴下・帽子などのラインナップがそろっており、やさしくてどこか懐かしい質感が好評である。紙糸の原料となるのは、農薬や肥料を使わずに栽培したマニラ麻。ぐんぐん成長して3年程で収穫できるため、二酸化炭素吸収に優れ、最後は分解されて土に還る循環型資源としても注目されている。現代の衣服の大量廃棄や環境汚染問題に対して、取り入れていくべき素材だと思われる。(4)

3. 教育事例と問題点・課題

3. 1 授業における制作状況

科目名「ファッションデザイン実習Ⅰ」、「ファッションデザイン実習Ⅱ」の授業にペーパーファッション制作を取り入れた授業の履修者は、20人前後、ファッションデザイン実習Ⅰでは火曜3・4限クラスと水曜1・2限クラスに分かれている。同じ授業内容を2クラスに分けて行なっている。

図1 授業シラバス内容概略

- ① 色彩構成の基礎学習、色彩構成制作
- ② ファッションデザインイラストレーション基礎の技法、ファッションデザインイラストレーション制作
- ③ ドレスシルエットや用語の基礎学習、シルエット制作
- ④ テキスタイルデザインの基礎学習、テキスタイルデザイン制作
- ⑤ 紙加工の基礎学習、ペーパーフラワーなど制作
- ⑥ パターン(型紙)の基礎学習、ハーフトルソを使って練習
- ⑦ コンセプトメイキング、ペーパーファッション試作
- ⑧ 試作をもとに、ペーパーファッション本作
- ⑨ ファッション小物作成
- ⑩ ペーパーファッション仕上げ、講評

順番が多少前後変わることもあるが、このような流れで、ペーパーファッションの制作を進めながら、その都度ファッションデザインについて基礎的な技法や学習も取り入れている。一つ一つ積み上げることで、中学校・高校時代に衣服を作る経験の有無にかかわらず、理解を深めていけるように授業を計画し、実施している。

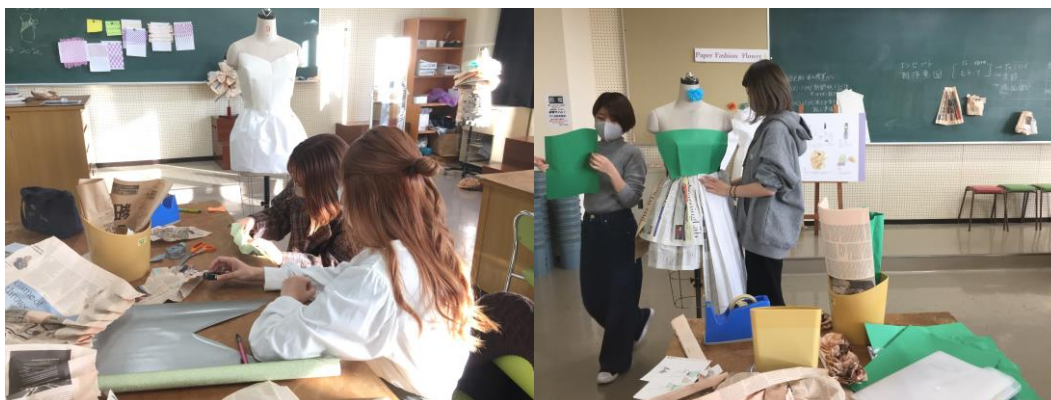


写真1、2、2020年の就実短期大学生活実践科学科 ペーパーファッション制作の様子

制作過程

上記の「明日も爽やかに」の作品を例に説明いたします



1

今回は、花というテーマで制作のため、モチーフとする花を選ぶ。



2

1で選んだモチーフとなる花から、イメージを膨らまして、アイデアスケッチを行う。色や素材についてはあまり考えずに、シルエット重視で考えていく。



3

デザインが決まったら、着彩して、どんな色の紙を使うか考える。



4

新聞紙で試作する。折り曲げたり、巻いたりしながら、本番と同じように制作する。



5

試作で駄目だった箇所は修正し、本制作に取りかかる。一つひとつ、丁寧に時間をかけて制作する。



6

全体のバランスを見ながら、最終調整を行う。

図2、2019年の就実短期大学生活実践科学科 ペーパーファッション制作過程をイラスト入りで作成



写真3、 2019 年就実短期大学生活実践科学科のペーパーファッション作品

3. 2 オンライン授業の影響と改善点、解決のための教材

問題点としては、2020 年と 2021 年のように新型コロナ感染予防のため対面授業を実施ができずオンライン授業となってしまうと、この実習では授業対面授業を想定していて、学生が2名ほどのグループでペーパーファッション 1 着(ボディー1 体)を作りあげるの、オンライン授業ではこの実習が行えないということである。また、15 回の授業の 10 回ほどを使って制作するので、オンライン授業が半期に 5 回以上となると、対面での実習の回数が少なくなり制作が難しくなるということである。

2021 年度前期のオンラインの授業では、ペーパーファッション制作が行えなかったが、②③④の内容をオンライン授業で行い、その後対面授業になってから、ドールサイズのペーパーファッション制作を一人で 1 着(ドールサイズボディー1 体)制作する教材を取り入れた。制作した学生からの反応もよく、火曜 3・4 限クラスと水曜 1・2 限クラスの両方の作品を鑑賞でき、講評会も行うことができた。講評会では、作品のタイトルやコンセプト、簡易のファッションイラストを記入した用紙と一緒に作品を並べ、数人ずつが展示場所に行き、よかった作品に付箋を貼り投票する形式を取った。お互いの作品を鑑賞することで、鑑賞者の反応も見ることができ、次回の作品作りの意欲にもつながると思われる。

追加の講義内容として、ファッション用語の学習、市場ファッションのトレンド(流行動向)調査の学習も取り入れるべきかと思った、合わせて服飾の歴史の学習、ファストファッションとサステナブルファッションの学習を取り入れ、より総合的にファッションデザインを学べるのではないと思う。

3. 3 制作過程に組みこまれたプレゼンテーション体験効果

2020 年度に制作したペーパーファッションの作品を、2021 年のオープンキャンパスで高校生へ向けて制作過程をプレゼンテーションするという、制作過程の振り返りそしてパワーポイントの資料作りといった、総合的な能力が必要となるプレゼンテーションである。この取り組みは、生活実践科学科でのコミュニケーション能力を高める演習など実践的な科目がある学科であるので、非常に適していると思われる。今回は 3 名がパワーポイントによるスライドの作成を行い、そのうち 2 名が 8 月の対面型とウェブ型を同時に行うオープンキャンパスでプレゼンテーションを行った。そのプレゼンテーション後には、会場的高校生と保護者から暖かい拍手もあり、学生の言葉が来場者にしっかりと伝わったのだと思われる。

プレゼンテーションの資料作りでは、制作過程のまとめや、制作はじめにたてたコンセプトをどのように実現していったかの試行錯誤やプロセスを見直すことができ、また作品のできるまでの成り立ちやストーリーを見てもらうことができる。それをみるによりさらに、制作作品の意図が伝わりやすくなる。



図3、 就実短期大学 生活実践科学科 2 年 1 さんのパワーポイント資料(2021 年)

プレゼンテーションを終えた学生からの感想では、「私はスライドを作成する際に写真を多用し、高校生のみなさんが授業の様子をイメージしやすいような工夫を行いました。発表ではハキハキと話すことで、聞き取りやすくしました。発表を受けて、高校生の方が大学の授業の雰囲気イメージできていたらとても嬉しいです。」(就実短期大学 生活実践科学科 2 年 1 さん)の発言から、プレゼンテーションの工夫がみられる。

今後の改善点としては、ペーパーファッションの作成から翌年の夏のオープンキャンパスでのプレゼンテーションで発表するので、制作後から1年ほど期間が空いてしまい、記憶も薄れてしまうという問題点がある。そこで、プレゼンテーションの資料作りを計画的に準備しながらペーパーファッションを制作した方が、各自で写真などの制作過程の記録を残しやすい。制作直後に制作したことをまとめる時間を取り、パワーポイントなどで資料まとめをすることが重要では

ないかと思う。

ファストファッションの市場拡大による、近年のファッション業界の環境汚染問題や衣料品廃棄のゴミ問題などにも学習に取り入れ、サステナブルファッションのリサイクルやリユースを今後のペーパーファッション制作テーマに組み込んで行こうと思っている。

4. 小学生向けワークショップへの試み

大学生へ向けて授業でファッションデザインに関して教えてきたが、その要点や要素をとり入れ、もっと若い世代にも、教育普及ができればと考えていた。小学校では低学年から図工や高学年からの家庭科の科目はあるが、ファッションデザインに相当するような項目あまりはない。小学生にとって興味関心が持てる教材を研究し、またその指導方法なども考えていきたい。2021年8月19日(木)に岡山市立T小学校の学童で夏休みのファッションデザインに関するワークショップのボランティア講師を担当した。今年はコロナ禍で学童内での夏祭りなどのイベントが縮小や中止となり、また雨が降る日が続き屋外で活動できず、子どもたちの楽しい活動が非常に少ない夏休みだった。

図4、小学生向けワークショップ概要

概要

10時から11時まで、1-3年生向け、「カラーポリ袋でドレス制作」

参加者は12人。ワークショップ指導1名とボランティアの外部者補助2名。

材料:カラーポリ袋(一人当たり1から2枚)、リボン、モール、飾りボタン

道具:油性マジック、テープ、ハサミ、木工用ボンド

手順1、カラーポリ袋の色を選び、襟と袖部分を線に沿ってハサミで切る。(2枚重ねで切るところと、1枚のみを切るところに気を付ける)

手順2、カラーポリ袋の色を選び、切りドレスを重ね、テープで接着。

手順3、リボンやモール、ボタンなどで装飾。

岡山市立T小学校の学童の指導員(1-3年生)さんからの感想では、「女の子達はそういうことに興味がある子が多く、朝からワクワクしながら楽しみにしていました。自分の好きな色のビニール袋、飾りなど思い思いに選び、難しいところは手伝っていただきながらも、できるだけ自分の力で作ろうと一生懸命に頑張っている姿を見ることができて、私たち支援員も嬉しかったです。出来上がったドレスを壁に貼ったのですが、そこがとても華やかになりました。材料はほとんど同じものでも、それぞれの子が出来上がりをイメージしながら工夫しお友達とそうだしながたのしそうに作り、全部ちがった素敵な作品が出来上がりました。」

岡山市立T小学校の学童の生徒(1-3年生)からの感想では、

「はじめてドレスをつくったらたのしかったです。いもうとにきせたら、『やったー、ドレスだー』と
いっていました。じぶんでつくったドレスがきれいにできました。」

岡山市立 T 小学校の学童の生徒(1-3 年生)からの感想では、
「ドレス作りありがとうございます。とってものしかったです！！わたしが工夫したところは、ド
レスのかざりのヒモです。」というような、素直な子どもたちの感想がでた。

子ども達はとてもワクワクし、熱中して制作をしていた。補助に、学童の子どもの保護者に入
ってもらったので、より安心してワークショップを行えた。

ファッションデザインに関するワークショップを小学生低学年用にと考えた教材で、安価で手に
入りやすい材料や加工しやすい教材を考え、感想からも伺えるように、制作を楽しみながら衣
生活やファッションに関心が持てる機会となったと思う。

今後の改善点、予想以上にカラーポリ袋をハサミで切ることが小学生低学年では難しく時間
がかかった。どうすればよりスムーズに切れるかを次回までに検討したい。



写真 4、5 岡山市立 T 小学校 カラーポリ袋でドレス制作の様子と作品

図 5、小学生向けワークショップ概要

① 11 時から 12 時まで、3-6 年生向け、「ドールサイズのドレス制作」

参加者は 7 人。ワークショップ指導 1 名とのボランティアの外部者補助 1 名。

材料：ラッピングペーパー、不織布ペーパー、グリッターペーパー、花紙、リボン

道具：テープ、ハサミ、木工用ボンド、ホッチキス

手順 1、短大生の制作した「ドールサイズのドレス」を鑑賞。簡単なドレーピングを
教える。

手順 2、ラッピングペーパーなどの色を選び、裁断し形を作りテープで接着。

手順 3、花紙、リボン、ボタンなどで装飾。

岡山市立 T 小学校の学童の指導員(3-6 年生)さんからの感想では、「とてもかわい
い人形のドレスができたので、ワークショップの時間が終わってからも人形にビーズ

の首飾りを作ってあげたり、バッグを作ってあげたり、人形を使ってパーティーごっこをしたりしていました。お家に持って帰って飾っているという子、新しい服を作ってやりたいという子、それぞれですが大切にしてくれているようです。」

岡山市立 T 小学校の学童の生徒（3-6 年生）からの感想では、

「ドレス作りを教えてくださいありがとうございます、おかげで上手にできました。家族に見せたら、すごいとほめられました。こんなきかいがなければこんなことはできませんでした。本当にありがとうございました。きかいがあれば教えてください。」

子ども達は、非常に熱心に制作に取り組み、制作時間が足りない児童もあった。出来上がった「ドールサイズのドレス」の作品を持ち帰ることにとっても感激していた児童もいた。ファッションデザインに関するワークショップを小学生高学年用にと考えた教材で、安価で手に入りやすい材料や加工しやすい教材を考え、感想からも伺えるように、制作を楽しみながら衣生活やファッションに関心が持てる機会となったと思う。作品が出来上がる喜びの体験は、短大の授業でも変わらない。高学年ではもう一步踏み込んで、繊維の名称や、服のパーツやアイテムの名称など、ファッションデザイン用語を取り入れてのワークショップも考えることができそうだ。

今後の改善点は、集中して制作に取り組んだので 60 分では足りず、もっとゆっくりと制作時間を取ればよかった。短大生の制作した「ドールサイズのドレス」でも使用した、デコレーションシールなどの材料を準備しておく良かった。鑑賞し、同じように作ってみたかったが、同じ材料を準備していなかったのも、次回から準備しておこうと思った。



写真6、7 岡山市立 T 小学校 ドールサイズのドレス制作の様子と作品

学童でのボランティア講師は初めての経験だったが、大学生以外に指導する機会が少ないので、どうやってファッションデザインに興味を持ってもらおうかと教材研究したが、大学生が好きなものは小学生も好きな教材であった。子どもたちの素直な反応や喜びの感想を聞けてとても嬉しかった。ファッションデザインを通してモノを創ることの達成感や満足感が体験できたように思う。

制作方法を簡易にする部分と、それぞれに装飾など工夫できる部分と、時間の取り方や素材の準備の仕方を、ワークショップを行う側が工夫しておき、短い時間でも充実した作品制作

ができる環境を整えておきたい。また制作前後での学習や鑑賞の時間も設け、ファッションデザインが衣食住一部であり、身近な創造の作品として楽しめることをしっかり伝えるようにしていきたい。

5 おわりに

短期大学でのペーパーファッション制作は、制作を円滑に行うために、ファッションデザインに関わる基礎知識や技法を少しずつ紹介し体験しながら進めていく方法が、学習効果が高いように思う。しかし、その過程が多いので通り過ぎて忘れてしまい、完成した制作物だけの印象になってしまいがちだが、制作過程のプレゼンテーション資料を制作することで、作品のストーリーやコンセプトをしっかりと振り返ることができる。作品としても他者に伝わりやすくなると思われる。

小学生向けの教育普及は、実践することで課題も見え、今回のものをさらに良くするための改善点も発見できた。短大生の教材を簡易にするだけで、小学生高学年にも通用するということも発見だった。ファッションデザインや衣生活に関心を持ってもらえる教材研究、並びに教育普及の方法を今後も、試行錯誤していきたい。小学生に見えてくる課題は、短期大学生でも起こりうる課題である。なので、双方で実施し、課題を見つけ改善していくことによって双方の授業やワークショップの改善につながるのではないかと思った。

現代の社会問題でもある、ファストファッションの市場拡大による、近年のファッション業界の環境汚染問題や衣料品廃棄のゴミ問題などにも学習に取り入れ、サステナブルファッションのリサイクルやリユースを今後のペーパーファッション制作テーマやワークショップに組み込み、衣生活によりかんしんがもてるような教材を考えていきたい。

謝辞

論文執筆の機会をお与えくださった就実短期大学教授大友達也先生に感謝申し上げます。

岡山市立 T 小学校の学童保育のスタッフの皆様には、ワークショップの機会をいただくとともに、アンケートにも快く応じてくださいました。ここに深く感謝申し上げます。

参考文献リスト

- (1) 定延久美子、「紙衣和紙および紙衣和紙を用いた衣服デザインの研究」、デザイン学研究、2010 年
- (2) 「60年代大流行した『ペーパードレス』、有名アーティストらによる作品展が開催 - ギリシャ」、2007年、MODE PRESS
- (3) 編集委員・高橋牧子、「東北の手仕事にエール 三宅一生と縁ある工房展」、朝日新聞デジタル、2011 年 7 月 22 日
- (4) 「軽くて涼しい「紙」の服、KAMIKO(カミコ)」、モンベル公式サイト